

令和6年度自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年度6月

学校法人八幡学園やはた幼稚園

1. 本園の教育目標

〈理念〉

・健康な身体とまろやかな心をつくる

〈教育目標〉

・健康な子 ・ やさしい子 ・ 何でも言える子 ・ 考える子

・約束を守る子 ・ 他人に迷惑をかけない子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

(1) 自由遊びに(遊び)に具体的なねらいをもつ

(2) 子どもに寄り添った保育

(3) 環境設定から防げるけがを減らす意識

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 自由遊び(遊び)に具体的なねらいをもつ	A	本年度は、自由遊びの時間においても教育的な意図やねらいを明確にし、子どもたちの成長を促すことを意識して取り組んだ。特に年長児では、ドッジボールなどの集団遊びを通じて、仲間と意見を出し合い、ルールを共有しながら遊びを深める姿が多く見られた。こうした活動を通じて、他者と関わる力や自己主張・自己調整の力が自然と育まれていることが確認できた。一方で、すべての子どもが同様に遊びに没頭できるわけではなく、遊びの輪に入りにくい子や、特定の遊びに偏る傾向のある子に対しては、保育者のさりげない働きかけや環境構成の工夫が引き続き必要である。今後も、子どもたちの興味や関心に寄り添いつつ、遊びを通した学びが自然に展開されるよう援助を重ねていきたい。
(2) 子どもに寄り添った保育	A	保育の基本に立ち返り、「子ども一人ひとりを丁寧にみる」「その子らしさを大切にする」ことを全職員で共有しながら取り組んだ一年であった。特に、集団生活の中で自己表現が苦手な子、対人関係に不安のある子に対しては、担任だけでなくフリー保育者の視点からもアプローチすることで、その子の安心できる居場所や子ども同士の関係性の構築をサポートすることができた。日々の何気ないやり取りや、活動の合間に見せる子どもの表情や言葉に丁寧に向き合うことで、子どもたちが自信をもって自分らしく過ごす姿が増えてきたように思う。一方で、保育者間での情報共有や特別支援の一貫性において課題もあり、チームとしてより機能する体制づくりが今後の課題である。子どもの小さな変化や気持ちを見逃さず、職員全体で支え合う保育の継続が求められる。

(3)環境設定から防げるけがを減らす意識	A	安全な保育環境の整備は、子どもたちの健やかな育ちを支える上で欠かせない要素であり、今年度はその意識を職員全体で高めることを大きな目標とした。日常の中で起きたけがの事例を振り返ると、環境の工夫や点検によって未然に防げたと思われるケースもあり、特に園庭の凹凸や遊具周辺の安全確保、死角となる場所の見守り体制などの見直しが求められた。こうした課題を受け、職員間で危険箇所の情報を迅速に共有したり、簡易的な補修をこまめに行うなど、現場対応力の向上に努めることができた。今後は、さらに事故防止の視点を深め、定期的な安全点検の実施と記録、保護者への情報発信などを含め、園全体での危機管理体制の充実を図っていく必要がある。子どもたちがのびのびと安心して活動できる環境を作り守ることを、すべての職員の共通認識として持ち続けていきたい。
----------------------	---	---

4.総合的な評価結果

結果	理由
A	本年度も幼稚園が豊かな生活の場となるよう、子ども一人ひとりを丁寧に見ることや、その子らしさを全職員で共有し合うことができ、子ども達にとって幼稚園が安心できる場となるような環境を整えることができた。昨年度の課題である職員の保育後の作業の効率化は、少しずつ改善できつつあるが、来年度も更に効率的に作業の進め方を実践し、主軸となる教育保育の時空間を子ども達が生き生きと関わりあえるようにしていきたい。

5. 今後取り組む目標や課題

子どもたちの興味や関心に寄り添い、遊びを通した学びが自然に展開されるように、今年度も援助を重ねていきたい。また「その子らしさ」を大切に、子ども一人ひとりを丁寧に見ていく中で、子どもの表情や言葉に丁寧に向き合い、子どもたちが自信をもって自分らしく生活できるような保育環境を整えていく。そのためにも保育者間での情報共有を大切に、チーム保育として園全体で子ども一人ひとりを見守る体制を整えていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価結果

やはた幼稚園では、子ども一人ひとりの発達や興味に応じた保育が丁寧に実践されており、安心して過ごせる環境づくりがなされている。安全面や季節感、子どもたちの創造性を引き出す環境構成にも配慮されており、園を離れた日頃の遊びや活動までもがより充実しているように感じる。保護者との信頼関係も日常のやりとりや行事、面談を通じてしっかりと築かれており、地域との交流活動も子どもたちにとって貴重な経験となっている。今後も、子ども同士の関わりから育まれる「遊びを通した学び」が自然と展開されるような質の高い保育を続け、園の理念である「健康な身体とまろやかな心」を育てていきたい。